

中学生連載企画

私たちのふるさと松山学 No.29

南第二中学校

校歌を巡る旅「天山とていれぎ」

私たちの南第二中学校の校歌には、3つのシンボルがうたわれています。1番には「石鎚」、2番には「天山」、3番には「ていれぎ」です。私たちは、校区にある2つのシンボル「天山」と「ていれぎ」について調べました。



天山三山 (鷹尾さん作)

天山三山

天山三山は、松山平野のほぼ中央に位置する独立丘陵で、北に天山、東に星岡山、西に東山があり、この天山三山に囲まれた平地の中央に小野川、川附川が流れています。

天山の由来

伊予国風土記に「天から山が降り、途中、二つに分かれて、一方は大和の天の香具山となり、残る一方は伊予の天山となった」と記されています。

現在、この伝説が縁で、天山神社と天香山神社の間で交流があり、その石碑が天山神社にあります。

「石井村史」によると、「上古の時代、伊弉諾命、伊弉冉命両神は日の神をこの山でお生みになった。それで天日子山といわれていた。山頂に三神の廟(脚注1)がある。神武天皇御即位後、大和国に移まつり日子山といったが、すなわち今の香具山といわれるものである。だから当山は伊弉諾命、伊弉冉命二神の御駐蹕(脚注2)の地であり日の神のお生まれになった所であるので天山と称する」と記されています。

一方、奈良県にある大和三山は、東に香具山、北に耳成山、西に畷傍山があり、この大和三山に囲まれた平地の中央に飛鳥川が流れています。

私たちが住んでいる天山三山のあるこの地は、藤原京が置かれていた大和三山に似ているともいわれ、政治の中心地に適した地形であったといわれています。

現在、この伝説が縁で、天山神社と天香山神社の間で交流があり、その石碑が天山神社にあります。



杖ノ淵公園の弘法大師の像

ませんでした。ところが高井の里まで来ると、老婦人が親切に水を飲ませてくれました。これを喜んだ大師は、このように水の乏しい所ならばと、持っていた杖を地面に突き立てたところ水が湧き出しました。

名水百選

昭和43年からの水質保全活動が評価され、全国775カ所の申請の中から昭和60年に当時の環境庁(現環境省)より名水百選に選ばれました。

ていれぎ

伊予節にも「高井の里のていれぎや」と歌われている「ていれぎ」は、清流に自生する水草の名前で、学名「オオバタネツケバナ」



杖ノ淵公園のていれぎ

校歌で伝統を語り継ぎたい

調べてみると、この地区の伝統が詰まった校歌で、奥が深いと感じました。自然豊かなこの地区をもっと好きになりました。校歌でこの伝統を語り継いでいきたいと思います。



(左から) 佐藤 心都さん、鷹尾 真一郎さん、今泉 彩花さん、遠藤 いぶきさん、岡本 莉央さん、藤井 陽菜さん (いずれも2年生)

校歌

作詞 藤内 治
作曲 高橋 徹

一 朝日に映ゆる 石鎚の雄々しき姿 仰ぎ見て輝く瞳 ひたすらに理想の道を 求めなん

二 風土記にゆかし 天山の先人のあと 受けつぎて向学の意気 高らかにこころとからだ 鍛えなん

三 わきてあふるる 清流のていれぎの里 うるわしく南第二の 学び舎に「創る」の校訓 究めなん



天山神社の石碑

杖ノ淵伝説

昔、弘法大師が諸国巡礼中、大早魃でこの村へ行ったとき水を飲ませてくれ

子規の句

ていれぎの下葉浅黄に秋の風 正岡子規
秋風や高井のていれぎ三津の綱 正岡子規



正岡子規の句碑

※脚注1 祖先の霊を祭る所のをとどめること
※脚注2 御幸中、一時乗りものをとどめること
※脚注3 魚類に近い円口類やツメウナギ科の動物

先人と文化の読み物教材

語り継ぎたいふるさと松山百話

I・II・III・IV



松山の先人や文化に関する心に響くエピソードをまとめた教材集です。一話が10〜14ページ程度で、気軽に松山ゆかりの先人の足跡や文化に親しむことができ、市立図書館で見ることが出来ます。